

試験科目名
デザイン・アート実践論

(4枚中1枚目)

- [1] 次の文章1～3はティム・インゴルドの著書『ラインズ 線の文化史』より抜粋したものです。
文章を読んで、(1)～(3)の設問に答えなさい。

(100点)

文章1

(前略)



(後略)

引用出典：ティム・インゴルド著、工藤晋訳、『ラインズ 線の文化史』、左右社、2014年、pp.131-136

[1] - (1)

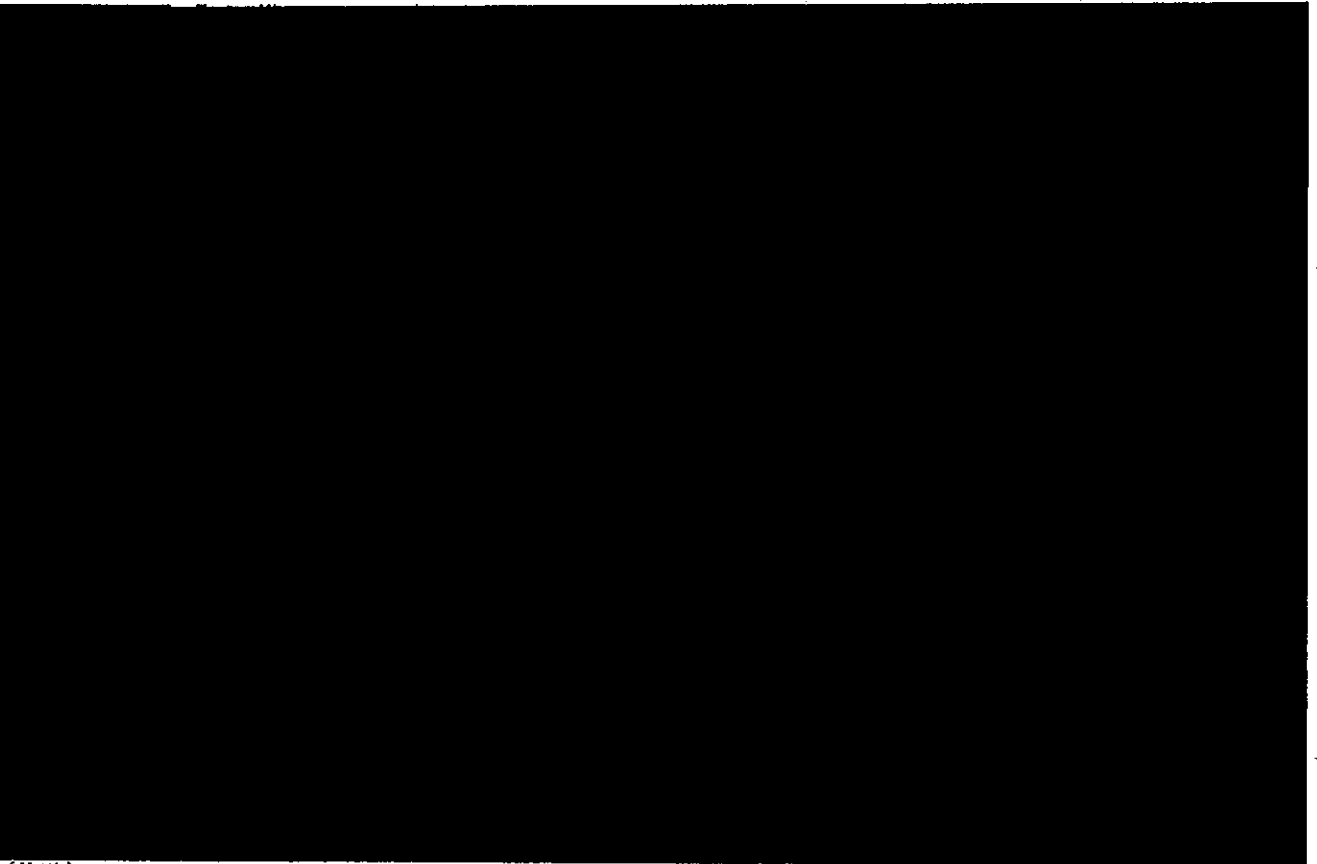
< ^{ネットワーク}網目 > は概念としても、方法としても、機構としても重要であり、マネージメント、トランスポーターション、インフォメーション、造形など様々なデザイン分野と関連がある。上記の文章1から着想し、「アドレスのデザインをせよ」という課題に対して、あなたが考える対象、方法、概念などを300字程度で論述しなさい。

試験科目名
デザイン・アート実践論

(4枚中2枚目)

文章2

(前略)



(後略)

引用出典：ティム・インゴルド著，工藤晋訳，『ラインズ 線の文化史』，左右社，2014年，pp.190-191

[1] - (2)

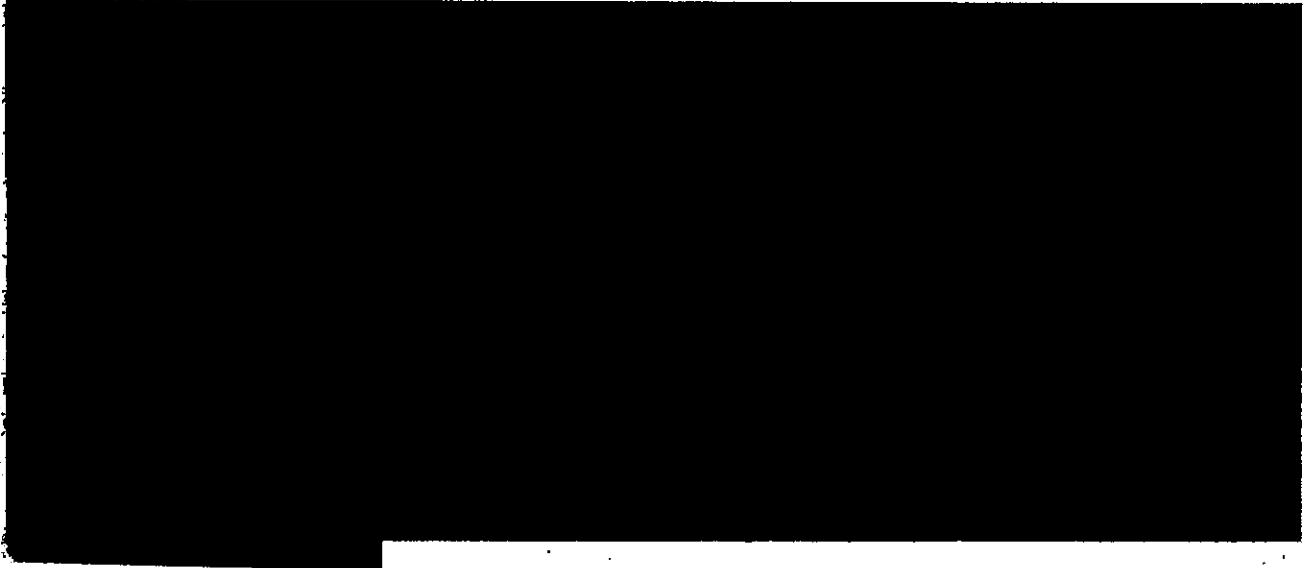
インゴルドは記述と線描について、二項対立として区別できないことを説いている。書（カリグラフィー）や楽譜、上記の文章2の幼児の言語の習得過程などを例に、記述でも描画でもない、あるいはそのどちらでもある線、すなわち「ライン」としか呼び表せないものを示している。画／言葉、記述／描画、図／絵、人工／自然、技術／芸術といった、どちらでもありながら、どちらでもないような区別と混同が同時に成立する例をあげて、その区別と混同のあり方について300字程度で論述しなさい。

試験科目名
デザイン・アート実践論

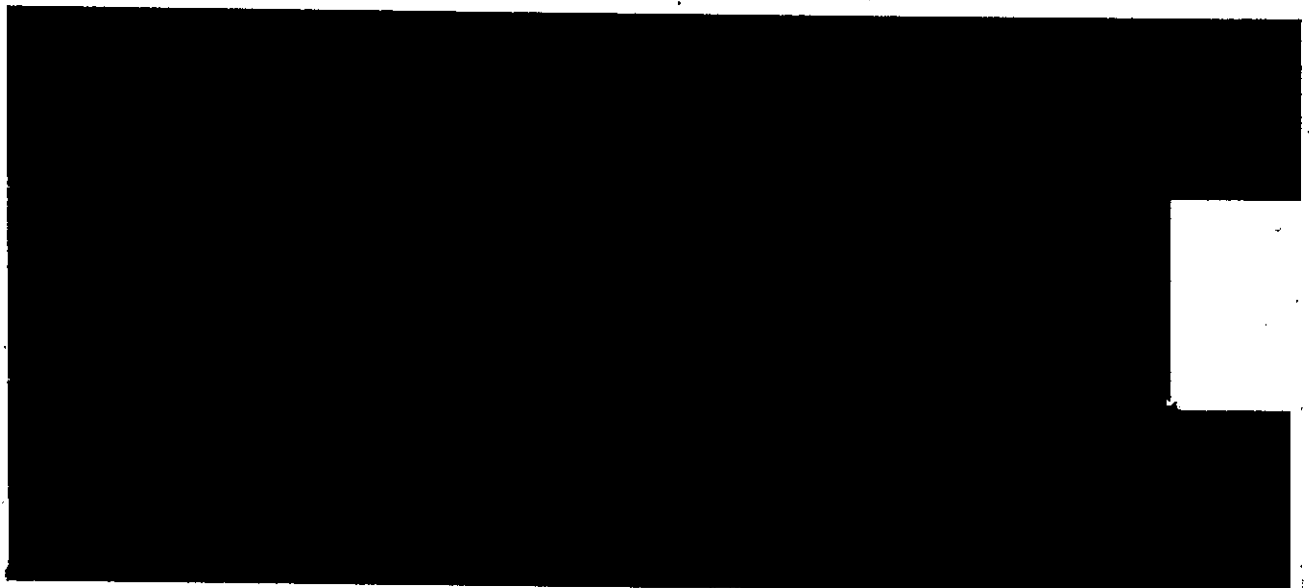
（4枚中3枚目）

文章3

（前略）



（後略）



引用出典：ティム・インゴルド著，工藤晋訳，『ラインズ 線の文化史』，左右社，2014年，pp.249-253

[1] - (3)

上記の文章3を読み、スケッチすることの意味を、設計仕様書あるいは楽譜との違いを踏まえながら、身体性、思考、創造性などの観点から300字程度で論述しなさい。

2023（令和5）年度 大学院 修士課程（一般入試）学力検査問題

試験科目名
デザイン・アート実践論

（4枚中4枚目）

[2] 下記のデザイン・アート実践に関する16個のキーワードから5つを選択し、それぞれの解説を所定の解答欄に300字程度で記述しなさい。

解答紙には必ず選択したキーワードの番号を記入すること。

なお、解答順は番号順になっていなくてもよい。

（100点）

(1)	(2)	(3)	(4)
インダストリアルデザイン	サービスデザイン	シビックデザイン	シグニフィア
(5)	(6)	(7)	(8)
機能主義	ヴィジョンデザイン	デザインコンセプト	No one will be left behind
(9)	(10)	(11)	(12)
天然知能	自由意志	遠近法	創造性
(13)	(14)	(15)	(16)
ホワイト・キューブ	デフォルメ	シンメトリー	イタリア未来派